

子育て家庭支援のスタートライン

乳児家庭全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん事業、以下本事業）実施者研修会が3月9日（木）市立子ども子育て総合センター「あいっく」子ども交流センターで開催され、主任児童委員10人が参加しました。今回は、講師に泉南市子ども総合支援センター所長の西岡光代氏を迎え、家庭訪問をする時の役割や注意点を再認識する目的で実施されました。

西岡氏からは、増加の一途をたどる虐待の背景として考えられる要因や虐待通報の前に地域でできることを経験談を交えながら具体的な説明がありました。また、保健師や看護師などの専門職が行う「新生児訪問」と非専門職が行う本事業との違い、訪問者が気をつけなければならないことも話していました。研修の最後に、西岡氏は「気軽に声をかけ合える地域づくり、親に寄り添える関係づくりが大切です」と参加者に伝えていました。



参加者の声

- 専門職でない民生委員・児童委員の訪問時の役割がはっきりわかりました。町で会った時に気軽に声をかけ合える関係ができる訪問を目指します。
- 訪問した時に、まず親を認めて受け入れることが大切であるという先生のお話が勉強になりました。先生の「子どもは親の所有物でない」ということばを心に留めて、子どもは地域の宝という思いで活動していきたいです。

支援者交流会

3月24日（金）市立子ども子育て総合センター「あいっく」子ども交流センターで、支援者交流会が開かれ民生委員・児童委員16人（うち主任児童委員8人）が出席しました。この交流会は、毎年あいっくが主催しているもので、市内のこども園、保育所、子育て支援団体の関係者が参加して、それぞれの活動を発表して、今後の関係づくりを目的としています。

第1部は「デート・ゲーム」。まずは月曜日から土曜日までのデート相手を見つけます。次に司会の指定した曜日の相手と、氏名・所属団体名・日頃の活動内容・交流会で聞きたいことなどを話しながらデートを6回行いました。

コーヒープレイクをはさんで、第2部は、6つの班に分かれて日頃の活動をしていて感じる事、働く母親を取り巻く環境、本市での育児の課題などが話されました。各班での話し合いの発表のあと、それぞれの保育園の保育士さんから、子育て支援の特徴やこだわっている点を紹介されました。最後は参加者全員でわらべ歌を歌いました。

参加者の声

- 話の内容が地域や団体の枠を超えて広がり、とても楽しく有意義な時間を過ごすことができました。
- 各地区、各団体で素晴らしい活動をしているので、ぜひ見学して参考にしたいと思います。



訃報

北浦 友信さん（長野地区）3月5日死去

北浦さんは平成25年から28年の3年間高齢者部会の部会長を務めました。ご冥福をお祈りいたします。